

会 告

第 101 回 (昭和 56 年 4 月) 講演大会講演募集案内

申込 (原稿同時提出) 締切り 昭和56年1月12日(月)

本会は第 101 回講演大会を昭和 56 年 4 月 2 日(木), 3 日(金), 4 日(土) の 3 日間東京大学において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和 56 年 1 月 12 日 (月) までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

なお、前回より講演概要中の図、表、写真の説明は英文で書いてもよいことになっておりますのでお知らせいたします。

講演概要は英文化 (所定のタイプ用紙 1 枚) し、Trans. ISIJ に投稿できるようになっておりますので、多数ご投稿下さるよう併せてご案内申し上げます。投稿締切: 昭和56年4月30日 (木) (詳しくは N338 頁参照)

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛込まれていけるものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙 (1600字詰) 1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。(いずれも表、図、写真を含む) ただし編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承ください。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
 - 8) 図、表、写真の説明は和文または英文とします。
 - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
 - 10) 原稿の書き方は鉄と鋼 Vol. 66, No. 13 会告末に綴込まれております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申し込みは 1 人 3 件以内といたします。
6. 申込方法 本誌会告末に添付の講演申込用紙ならびに受領通知ハガキに必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は (A), (B), (C) とともに太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、本誌会告末に綴込まれております)
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または集書による申込ならびに電報、電話による申込

4) 鉛筆書き原稿、文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当と認められるもの

9. 申込締切日 昭和 56 年 1 月 12 日 (月) 17 時着信まで

申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。

10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

(社) 日本鉄鋼協会 編集課 (電) 03-279-6021 (代)

講演分類

製			鉄			製					鋼			加			工
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14				
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	還元鉄製造	合金鉄	製鉄耐火物	製鋼原料	製鋼基礎	溶解・精錬	鑄造	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食				
加			工			材			料								
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25							
鑄造	粉末冶金	溶接	基礎物性	組織	性質	分析	試験・検査技術	計測・制御	環境・情報	その他							

原稿用紙、合本ファイル有償頒布について

1. 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴)

1 冊 400円 (〒 250円)

2～3 冊 (〒 300円)

2. 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)

1 冊 400円 (〒 250円)

2～3 冊 (〒 300円)

3. 講演前刷用原稿用紙

頒布料金 1 枚 5 円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5 枚 225円, 20 枚 400円, 40 枚 500円

10 枚 250円, 25 枚 425円, 50 枚 850円

15 枚 275円, 30 枚 450円

100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

4. 「鉄と鋼」用合本ファイル

1 冊 250円 (送料別)

5. 申込方法 ①原稿紙の種類, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金 (切手でも可) を添えお申し込み下さい。

6. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 庶務課

第 101 回講演大会 (昭和 56 年春季)

ポスターセッション講演募集案内

申込(原稿同時提出)締切り 昭和56年1月12日(月)

発表形式の新しい試みとして3年間にわたり春の講演大会でポスターセッションを実施いたしましたところ、大変好評を博しました。そこで56年の春季大会でも引き続きポスターセッションを実施し、一層の成果をあげたいと存じます。

ポスターセッションとは何か? 講演者にはポスターをはる場所と長い時間を与え、聴講者には聴きたい講演の選択と時間を与え、個人の間の十分な触れ合いと意見交換ができるようにした新しい方式であります。

ポスターセッションはどのように運営されるか? 講演者には室内にポスターのはれる壁面の他に机1個が用意されます。発表時間は約2時間与えられます。1名以上(できれば2名)の講演者が必ずその場に居ることが必要であります。講演者は下記の注意を守る限り、ポスター、写真、試料、テープレコーダなど何を用いてもよく、聴講者はどのブースでも話を聴きあるいは討論することができます。

今大会でのポスターセッションの運営方法 現状では従来方式の講演をこの方式に全部置きかえることは困難であります。今回は製鉄(高炉炉内状況)、製鋼(新しい転炉製鋼技術)、加工、性質(ステンレス鋼)の各部門につき各5~10講演をポスターセッションで運営する予定であります。

(* 前2回は基礎的なものに限りましたが、今回は技術的なものも歓迎いたしますので、是非ご参加下さい。)

(1) ポスターセッションを希望する場合、講演申込書の「特記事項」欄に「PS希望」と朱書して下さい。ただし申込み多数の場合には一般講演に変更することもあります。

(2) 一般講演の中から編集委員会でポスターセッションの適用のお勧めをすることもあります。

(3) 講演の前刷りは普通講演に準じます。

(4) ポスターセッションの時間は次のようにいたしました。

	ポスター 搬入展示	講演・討論	撤 去
午 前	9:00 ~10:00	10:00 ~12:00	12:00 ~12:30
午 後	12:30 ~13:30	13:30 ~15:30	15:30 ~16:00

(5) ポスターを張る壁面は、幅 1.8m×高さ 1.0m 1面と、幅 0.9m×高さ 1.0m 2面があります。

ポスターは壁面に画鋲で張り、B4判を使いますと壁面に約20枚が一度にはれます。(画鋲、セロテープなどは協会では準備します)。サンプルや模型、写真アルバムなどは机の上に展示することもできます。

(6) ポスターに書く文字は2m離れてもみえるように字の大きさを日本字は10mm以上英字や数字は7mm以上に大きくして下さい。

(7) 事務局にて壁面の上部に横書きで講演番号、演題、所属、発表者を記しておきます。

(8) ポスターは1枚ごとに左上に講演番号を記しておいて下さい。

(9) 講演者には胸につける番号札をさし上げますので講演中つけて下さい。

(10) スライドは使用できません。

(11) ポスターセッションへの申込方法は、一般講演申込と同じです。



昭和 56 年秋季 (第 102 回) 講演大会討論会

討論講演募集のお知らせ

昭和 56 年秋季 (第 102 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので誓つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉における計測技術 座長 研野 雄二

高炉の計測技術は、物質収支・熱収支の情報を正確に把握するという従来の段階から、解体調査における融着帯の知見等を基に、高炉プロセスそのものをより精度高く探求する方向に進展し、生産の安定化・燃料比レベルの大幅な低減等大きな成果をあげている。またコンピュータ等情報処理技術の目覚ましい進歩と相まって、プロセス制御まで結びつきたいくつかの実用モデルが報告されている。

本討論会においては、現在の技術開発の状況および将来の高炉計測技術・プロセス制御技術のあり方、またそれに対応する新検出端についての討議をお願いしたい。

2) 連铸時の酸化物系非金属介在物の挙動 座長 宮下 芳雄・副座長 大橋 徹郎

連铸スラブおよびブルームの高級鋼化 (ラインパイプ、D I 缶など)、鋼種拡大 (弱脱酸鋼など) の過程で問題になる介在物の実体 (大きさ、組成、分布状況) をまず確認したい。ついで出鋼から取鍋精錬を経て連铸にいたるプロセスで上記介在物の生成機構に言及し、その低減対策をマシンのタイプを含めた設備面および各種操業面より討論したい。介在物の同定法を含む基礎検討から現場的経験まで幅広い範囲で積極的な発表をお願いしたい。

3) 大型形鋼への連铸素材の活用 座長 柳沢 忠昭

大型形鋼の素材製造プロセスにおいて省資源、省エネルギー、高品質化のために、連铸素材の使用比率の向上が強く進められ、顕著な効果を発揮している。ところで、大型形鋼の製造においては素材として鋼塊製ビームブランクを使用することが多く、連铸化比率の向上には、連続铸造技術のみならず、圧延技術上の課題も多い。そこで、大型形鋼への連铸素材の活用技術上の諸問題とその対策について討議し、今後の動向を探索し、将来への指針の一助とする。

4) 低強度高靱性鋼の破壊靱性 座長 中村 正久・副座長 布村 成具

原子炉圧力容器をはじめ多くの構造物、装置を対象とした鋼材の破壊靱性値として J_{Ic} 試験が注目されている、試験方法としても、R 曲線法、フラクトグラフィ法、電位差法、A E 法、超音波探傷法などが提案されており、これらの方法相互の関係、金属組織、溶接熱影響部、応力除去焼なまし及び長時間加熱脆化などの種々の金属組織の変化に基づく安全性評価など広い視野からの発表と討論を期待する。

5) 鋼の高温低サイクル疲労 座長 金尾 正雄

原子炉、火力発電、化学工業などにおける各種高温機器は安全性の追求と最適設計が強く要求されている。このため、高温機器用材料の高温低サイクル疲労も重要な問題となり、各方面で活発な研究が行われている。

そこで、鋼 (超合金を含む) の高温低サイクル疲労に及ぼす材質、温度、時間、環境等諸因子の影響、損傷過程 (組織変化、き裂発生と伝ば等)、寿命推定などに関連した多方面からの発表と活発な討論を期待する。

2. 申込締切日 昭和 56 年 2 月 13 日 (金)

3. 申込方法 「鉄と鋼」第 1 号会告に綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますのであらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 56 年 5 月 15 日 (金)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、図、写真を含め 6,700 字) に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 67 年第 9 号 (昭和 56 年 7 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 67 年第 10 号 (8 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 56 年 9 月末日

前記 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 71 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— 80 年代における日本鉄鋼業 ——

主催 日 本 鉄 鋼 協 会

第 71 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 昭和 55 年 12 月 16 日(火), 17 日(水)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

II 演題ならびに講師

第 1 日	1.	9:30~10:40	80年代日本鉄鋼業の展望	日本鋼管(株)常務取締役技術開発本部長	白松 爾郎
	2.	10:50~12:00	日本経済における鉄鋼業の役割	日本興業銀行産業調査部長	奥村 有敬
	3.	13:00~14:30	鉄鋼業の省エネルギーとその将来	住友金属工業(株)エネルギー管理室長	山本 哲也
	4.	14:40~16:10	製鉄用資源の将来	新日本製鉄(株)鉱石部長	今井 敬
第 2 日	5.	9:30~11:00	製錬技術の将来	川崎製鉄(株)技術研究所次長	岡部 俠児
	6.	11:10~12:40	加工技術の将来	大阪大学工学部教授	加藤 健三
	7.	13:30~15:00	直接製鉄法の将来	(株)神戸製鋼所開発企画部次長	西田礼次郎
	8.	15:10~16:40	特殊鋼業の将来	大同特殊鋼(株)常務取締役	藤原 達雄

III 講演内容

1. 80年代鉄鋼業の展望 白松 爾郎

80年代における世界鉄鋼業の趨勢およびそのなかにおける日本鉄鋼業の位置づけについて考察する。

次いで、周辺状況の動向とその技術対応、すなわち、エネルギー、資源の動向とそれに対応する製鉄プロセスの動向あるいは、製品使用分野のニーズ動向に対応する新製品開発の動向等について述べる。

最後に、これ等技術開発の基盤となる今後の研究開発について、日本鉄鋼業の役割およびその体制、方向について論ずる。

2. 産業界における鉄鋼業の役割 奥村 有敬

わが国鉄鋼業は、卓越した生産プロセスとそれに基づく圧倒的な国際競争力を背景に、いま世界の鉄鋼供給基地ともいふべき立場にあるとともに、わが国の国民経済への貢献には極めて大きなものがある。第 71 回講座では、このようなわが国鉄鋼業が戦後の国民経済に果たしてきた役割をあと付け、さらに 80 年代のわが国産業を巡る環境を展望することにより、そこにおける鉄鋼業の新たな役割について一考察を試みたい。

3. 鉄鋼業の省エネルギーとその将来 山本 哲也

製鉄用のエネルギーは、大別すると石炭系、石油系、電力系に分けられるが、第 1 次オイルショックを契機として、石油系燃料の大幅削減に努力してきた。その努力の跡と、オイルレス製鉄所実現を目指した。今後の省エネルギー対策の限界と、その時のエネルギーバランスを、モデル製鉄所を想定して算出してみた。その結果を紹介したい。

4. 製鉄用資源の将来 今井 敬

わが国は、鉄鋼生産に必要な不可欠な主原料たる鉄鉱石のほとんどを海外に依存している。今回は、この鉄鉱石を中心とし、過去の日本鉄鋼業の発展との関連における発展経緯をのべ、今後、中長期的にみた場合の各国における鉄鉱石の賦存(産出)状況が、量的、質的にどのように変化していくのか、さらに使用する側からみた場合、これに、いかに対応していく必要があるかについてのべてみたい。

5. 製錬技術の将来 岡部 俠児

鉄鋼業における製錬技術の演ずる役割はますます重要になる。日本の全産業の消費エネルギーの 1/4 に達する鉄鋼業の中で乾溜・還元・溶解・精錬の工程は、製鉄所のエネルギー消費形態を決定する。次に産業基礎素材としてより安価でかつ信頼性の高い製品の生産と、用途に合致した高度な性質の製品の生産という要求にいかに応えるかが高炉・転炉法を軸にした 80 年代の課題となる。

6. 加工技術の将来 加藤 健三

鉄鋼における加工技術の問題は 80 年代に入り、その高付加価値化への移行、また、省エネルギー、省力化との関連における連続的加工技術へのアプローチなど多くの解決すべきものを含んでいると考えられる。ここではそれら加工技術のうちで、とくに圧延および塑性加工、さらに連続鍛造圧延、粉末加工などに触れてみたい。なお、それら技術の基礎や理論については一部、私見を述べさせていただく予定である。

7. 直接製鉄法の将来 西田礼次郎

直接製鉄法は多くの長い開発があるが、ここ 10 年来還元鉄(ペレット)製造法として工業的に確立された。現状の還元鉄の世界における設備能力は約 2 千万 t/年で、一般に電気製鋼原料として供給されている。還元鉄は中南米や中近東など天然ガスの安価な地域では主要鉄源の地位を占めるに至っているが、先進国ではスクラップとの併用の方

向にある。

この還元鉄製造について各プロセスの現状の技術、設備能力、製造コストなどの説明と関連技術分野を含めた今後の発展方向について言及したい。

8. 特殊鋼業の将来 藤原 達雄

クオリティー・スチールの時代と呼ばれるほどに、特殊鋼に対する諸要請が増してきた。

航空機産業やエネルギー開発のための高級鋼に、その好例を見ることができる。

一方、量産鋼に対する品質特性値の向上、低廉化などに関する要求も一段と強まってきた。

このような事情をふまえて、特殊鋼の生産推移、生産のためのエネルギー消費、還元鉄利用の問題、製造技術の進歩、需要産業との関連などについて 80 年代の展望を述べる。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問 合 先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

第 72・73 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— 特殊精錬技術の最近の進歩 ——

主催 日 本 鉄 鋼 協 会

第 72・73 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 第 72 回 昭和 56 年 2 月 17 日(火)、18 日(水)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階)

第 73 回 昭和 56 年 3 月 11 日(水)、12 日(木)

大阪 大阪科学技術センター大ホール (大阪市西区靱本町 1-8-4)

II 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~11:00	総論	特殊鋼部会長・大同特殊鋼(株)	藤原 達雄
	11:10~12:40	特殊精錬の基礎	九州大学工学部	川合 保治
	13:30~15:00	電気炉製鋼と真空脱ガス法	山陽特殊製鋼(株)	杉山 信明
	15:10~16:40	ステンレス鋼の炉外精錬法	日本冶金工業(株)本社	渡辺 哲弥
第 2 日	9:30~11:00	取鍋精錬法 I (LF, VAD, ASEA-SKF)	三菱製鋼(株)東京製造所	橋本 清
	11:10~12:40	取鍋精錬法 II (GAS バブリング, インジェクション, 他)	愛知製鋼(株)	伊藤 孝
	13:30~15:00	特殊溶解法 (VAR, ESR, 他)	日立金属(株)安来工場	岸田 民也
	15:10~16:40	炉外精錬用耐火物	東京窯業(株)	守川平四郎

III 講演内容

1. 総論 藤原 達雄

最近の鉄鋼生産技術の進歩のうち、溶製技術においては、省エネルギー、生産性向上、高品質鋼要求の点から、炉外精錬技術の発展が著しい。

本稿では、日本における炉外精錬技術の発展経緯、最新の技術レベル、さらに高級鋼溶製技術としての特殊溶解法の位置づけについて、特殊鋼を中心に概説し、将来動向についても総括的に述べる。

2. 特殊精錬の基礎 川合 保治

最近、製鋼炉外で溶銑、溶鋼を精錬する各種のプロセスが提案され、また実際操業に応用されている。一方各種の特殊溶解炉も着実にその地歩を固めている。これらの基礎となるのは、ガスおよび粉体の吹き込み技術であり、新しい精錬スラグ、フラックスの開発である。

本講座ではこれらに関する基礎的問題、すなわち吹き込みガスの挙動、吹き込み粉体の精錬反応、特殊スラグの精錬機能などについて概説する。

3. 電気炉製鋼と真空脱ガス法 杉山 信明

電気炉操業における精錬の役割の大部分は真空処理に移行している。これは電気炉の生産性向上の一因をなすものであり、同時に特殊鋼の品質特性をも著しく向上させた。真空処理の操業について、その反応容器としての耐火物およびスラグ条件と脱酸条件や処理時間などについて述べる。ついで特殊鋼の品質特性たとえば転動疲労寿命や O_2 含有量について記述し、最後に、エネルギー関連の諸原単位について述べる。

4. ステンレス鋼の炉外精錬法 渡辺 哲弥

最近のステンレス鋼の炉外精錬技術の進歩は目ざましいものがあり、生産性の向上、原料・エネルギーの合理化、品質面においても高純度フェライト鋼などの高性能合金の精錬技術開発など極めて大きな意義をもっている。炉外精錬法としては AOD 法で代表される底吹き転炉により稀釈 O_2 ガスで脱炭する方法と、真空容器中で脱炭する方法をとりあげ、脱炭、スラグ反応などの精錬反応理論、精錬機能、操業特性、生産性、品質などの観点から両者の特性を対比しつつ論じたい。

5. 取鍋精錬法 I 橋本 清

(講演内容は追って掲載いたします)

6. 取鍋精錬法 II 伊藤 孝

真空処理や加熱を行わない取鍋精錬法という分類であり、Ar などの不活性ガスを使った取鍋精錬や、特殊合金を歩留よく添加する方法、また近年特に注目されているインジェクション法などを対象とする。各プロセスとも近年積極的に開発、改善が行われ、主に量産鋼を対象に広く実施されて炉外精錬の一翼を担っているが、現在利用されているプロセスの種類、操業状況、効果、他の炉外精錬との位置づけ、将来性などについて記述する。

7. 特殊溶解法 岸田 民也

近時、航空機用材料、原子力関連機器材料など高度の品質や信頼性が要求される材料の需要が増大している。これらの材料に対しては、VIM, VAR, ESR など、いわゆる特殊溶解を行うことが一般化してきている。ここでは、VIM, VAR, ESR などにおける最近の装置や操業技術などの進歩動向をのべるとともに、代表的鋼種において、これら特殊溶解法を適用した場合の特性の改善例を紹介する。また、最近電子ビームやプラズマなど特殊熱源を用いた精錬法も発展してきたが、これらについても言及する。

8. 炉外精錬用耐火物 守川平四郎

炉外精錬用耐火物として、現在主として使用されているマグクロ質ダイレクトボンド、リボンドれんが、マグネシヤカーボンれんが、ドロマグれんが其他について、基本的な特徴の解説を行い、これらが RH, DH, AOD, VOD, LF, VAD, ASEA-SKF 等に使用されている状況を説明し、現在の問題点、及び将来の課題について概説する。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

会費等納入についてのお願い

昭和 56 年分会費等の納入時期となりました。本会の事業は会費を主な財源として行なわれますので、会費は毎年 12 月に 1 年分を前納していただくことになっております。別送の郵便振替用紙にてお払込み下さいますようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあっては幹事宛お支払い下さい。

記

	会費年額	入会金
正 会 員	8,000 円 (変更なし)	800 円 (変更なし)
学生会員	2,000 円 (変更なし)	0 円 (変更なし)
外国会員	6,000 円 (変更なし)	600 円 (変更なし)

鉄と鋼および Trans. ISIJ の両誌購読の追加特別料金は 4,000 円 (従前 3,600 円)

宛先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
社団法人 日 本 鉄 鋼 協 会

お知らせ

鉄と鋼および Trans. ISIJ の両誌購読会員の追加特別料金は印刷費等の高騰により 3,600 円から 4,000 円に値上げさせていただきましたので、ご了承の上ご継続下さるようお願いいたします。

第3回高温変形部会シンポジウム案内

テーマ：高温変形と高温破壊

主催：鉄鋼基礎共同研究会高温変形部会

当部会では下記によりシンポジウムを開催することになりましたので多数ご参加下さるようご案内いたします。

記

1. テーマ 第3回高温変形部会シンポジウム「高温変形と高温破壊」

2. 日時 昭和56年2月17日(火) 9:00~17:00

3. 場所 経団連会館 14 階 経団連ホール
(東京都千代田区大手町 1-9-4 電 03-279-1411)

4. プログラム

I. 高温変形機構

◦ Keynote Lecture 「高温変形機構」

九 大 吉永日出男

◦ 問題提起 (1) 「高温変形中の回復速度と高温変形条件」

横 国 遠藤 孝雄

(2) 「動的再結晶挙動の問題点」

電通大 酒井 拓

(3) 「動的再結晶組織の特徴及び静的再結晶との比較」

京 大 牧 正志・田村部会長

II. 高温変形抵抗

◦ Keynote Lecture 「鋼の熱間変形抵抗」

広 大 大森 正信

◦ 問題提起 (1) 「Nb 含有鋼の高温変形抵抗」

川 鉄 榎並 禎一

III. 高温延性と高温破壊

◦ Keynote Lecture 「高温破壊と粒界すべり」

東 大 堀内 良

◦ 問題提起 (1) 「1200~600°C 温度域における鋼の脆化特性」

新日鉄 鈴木 洋夫

(2) 「高温変形機構と熱間延性」

鋼 管 未定

(3) 「リムド鋼の未凝固圧延について」

住 金 林 千博

◦ Keynote Lecture 「鋼の高温粒界破壊」

東北大 須藤 一

◦ 問題提起 (1) 「オーステナイト系ステンレス鋼の高温延性と粒界析出」

日 新 星野 和夫

(2) 「SUS 309 ステンレス鋼の熱間加工性」

大 同 伊藤 幸生

(3) 「二層ステンレスの熱間加工性」

新日鉄 小林 尚

5. 連絡先・担当者

日本鉄鋼協会技術部 大山高司 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 電話 03-279-6021

シンポジウム「鑄造複合材料とその製造技術」

開催のお知らせ

主催：日本鑄物協会 協賛：本会ほか

日時 昭和56年1月20日(火) 10:00~17:00

場所 東京・機械振興会館 B3 研修1号室

参加費 主催協賛学会会員 10,000円,
非会員 14,000円, 学生会員 3,000円,
学生非会員 5,000円

定 員 110 名

申込み期限 昭和56年1月10日(土)

(満員になりしだい締切ります)

問 合 せ (社)日本鑄物協会

申 込 み 先 〒114 東京都中央区銀座 8-12-13

Tel (03) 541-2758

講演及び講師

1. 金属被覆鑄造法 三菱重工広島研 渡辺貞四郎

2. セラミック鑄ぐるみ鑄物

トヨタ自工 小松 康彦

3. 遠心(鑄造)複合ロール

久保田鉄工 中村 史朗

4. コンポキャスト法

金材技研 佐藤 彰

5. 噴射分散強化合金

早大 長谷川正義

6. 黒鉛分散鑄造合金

日立化成 大宮 末男

シンポジウム '80 「センサー」開催のお知らせ

主催：日本材料科学会 協賛：本会ほか,

日時：昭和 55 年 12 月 12 日(金) 10:00~16:20

会場：蔵前工業会館 5 階ホール

(新橋駅下車3分)

セラミックスとセンサー

東 芝

一ノ瀬昇君

高分子材料とセンサー

東工大資源研

鈴木周一君

半導体温度センサー

日立家電研

二木久夫君

金属磁気センサー

東海大工学部

金子秀夫君

これからのセンサー

東工大工学部

高橋 清君

参加費：¥ 3,000 (予稿集代を含む)

照会先：日本材料科学会

〒227 横浜市緑区長津田町 4259

東京工業大学総合理工学研究所内

TEL 045-922-1111

内線 2620 または 2058